

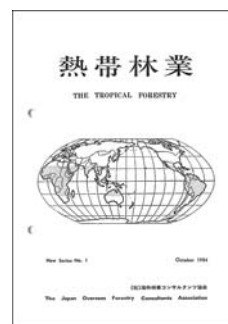
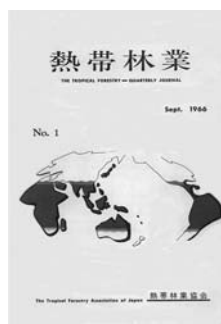
「海外の森林と林業」の 発刊にあたって

伴 次 雄

「熱帯林業」の会員の皆様に支えられ先号で70号の節目を越えました。振り返って見ますと、昭和30年代末のわが国のめざましい経済成長に伴い、国有林の増伐対策がとられたものの増大する木材需要に追いつかず、1964年に木材輸入自由化が行われました。当時は森林開発・木材輸入のノウハウの蓄積が少なかったことなどに対応するため、1966年に総合商社、木材関連企業を中核とする熱帯林業協会が、情報交換誌として「熱帯林業」の創刊号を発刊しました。その内容は会のメンバー構成のニーズから熱帯の樹木学、木材利用、木材工業等に関する技術、熱帯木材の情報でありました。1970年代に入り木材輸入の仕組みも変わり、開発輸入から買材方式になったものの、「熱帯林業」への期待感が変わらず1984年まで継続されました。しかしながら熱帯林開発輸入業界の縮小に伴い熱帯林業協会の解散により72号をもって廃刊となりました。

しかし、浅川澄彦氏ら当時の編集委員方々を中心に関係者のご熱意により、時代の変化に対応して、森林・林業分野の国際協力を加えるなど裾野を拡げて、同年9月にJOFCA、林野庁、林業試験場の研究者等で作られたいわば新熱帯林業研究会により、新シリーズ「熱帯林業」の再出発が実現されました。その後(1991)発行者はJOFCAからJIFPROに変わりましたが、新シリーズ「熱帯林業」は70号まで発刊してまいりました。

1992年のUNSEDは森林・林業問題にとって大きな節目となりました。国内、海外を問わず環境問



旧シリーズ 1号 (1966) 新シリーズ 1号 (1984)

題がクローズアップがされ、その中で森林問題が地球規模のものであるとの国際的共通の認識となりました。国内の世論調査でも森林に期待する機能順位として木材生産機能よりも国土保全、水源かん養、地球環境が上位を占めるようになり、来年の洞爺湖サミットの中心課題が地球温暖化防止と聞いています。また、最近の森林・林業情勢が変わってきていることの象徴的なものは2001年に37年ぶり「林業基本法」が抜本的に改正された「森林・林業基本法」となりましたことはご記憶に新しいことでしょう。

「熱帯林業」への投稿も時代を反映し環境保全、社会林業、国際協力などに関するものが増加してきております。これまでも、「熱帯林業」の名称等について現在の森林・林業の情勢にあわせて「名は体をあらわす」ものとすべしとの声もありました。今回新シリーズ70号を機に、この問題を編集委員会で検討、会員の皆様へのアンケート等を経て「海外の森林と林業」として新たなスタートを切ることといたしました。また紙面、活字を大きくしましたが、本誌の伝統と皆様方の「熱帯林業」への想いを大切に、号数は継続して71号とし、表紙のデザインフレームも承継することといたしました。皆様方のご協力とご支援のもと、名前に負けないものとして育てていきたいと思っていますのでよろしくお願い申し上げます。

Tsuguo Ban : On the publishing of a Renewal Journal
(財)国際緑化推進センター